

2024年度「実践予報技術講習会（3日コース）」のご案内

2024年度の「実践予報技術講習会(3日コース)」は、春夏秋冬、四季それぞれの季節で代表的な天気・顕著現象をテーマとして、1年間で4つのテーマを取り上げます。

ひとつのテーマごとに1日目はその季節における代表的な天気について概観し、さらにその季節に発現する顕著現象について、実況や予測資料など用いて〔一部、演習を含む〕現象を理解する上でのポイントを解説します。2日目はその季節の顕著現象によって起こる気象災害を概観し、災害を防ぐ取り組みなどを考えます。3日目は各回、防災に関わる一つのテーマを取り上げて、テーマに関わる現象や課題などを解説し、理解を深めます。

各回の3日目の防災に関わるテーマは予定です。

1. 講習期日

○ 第1回 テーマは「雨」です。

梅雨前線や盛夏期の大雨など、しばしば災害につながるような“雨”を取り上げます。

1日目 2024年5月25日(土) 13時30分～16時30分

2日目 2024年6月8日(土) 13時30分～16時30分

3日目 2024年6月15日(土) 13時30分～16時30分

第1回3日目のテーマは「近年の気象災害の特徴と課題、防災への取り組み」です。

○ 第2回 テーマは「風」です。

台風に伴う暴風、それに関連して起こる高波や高潮、塩潮害など“風”を取り上げます。

8～9月 日程は未定です。改めてお知らせします。

第2回3日目のテーマは「タイムライン防災」です。

○ 第3回 テーマは「雪」です。

発達した低気圧や強い寒気に伴って起こる大雪や、暴風雪、それらに関連して起こる雪崩や雪泥流など“雪”を取り上げます。

11～12月 日程は未定です。改めてお知らせします。

第3回3日目のテーマは「忘れてはならない気象災害。過去の災害から何を学ぶか」です。

○ 第4回 テーマは突風や雹、雷、霜、霧など“局地現象”です。

冬季から夏季への季節の変わり目において、しばしば起こる竜巻などの突風や雹、雷、霜、霧、乾燥などの“局地現象”を取り上げます。

(2025年) 2～3月 日程は未定です。改めてお知らせします。

第4回3日目のテーマは「防災気象情報の効果的な利用を考える」です。

第2回、3回、4回の「実践予報技術講習会(3日コース)」の日程については、開講の2か月ほど前に、改めて当センターHPに掲載、案内致します。

2. 講習対象者

この講習会は気象予報士の資格を有している方で気象に関する業務に従事している方のほか、気象に深い関心をお持ちの方、気象や気象防災の啓発活動に関わる方など気象の解析・予報の技術や関連した防災について習得したいと考えておられる方を対象としています。

講習の内容は特に高い専門性を必要とするものではありませんので、気象予報士の資格を取得したあと、実務経験が少ない方、自治体や報道機関など気象防災に関わる業務に従事している方など、幅広く受講していただける内容です。地域の防災力の向上に高い関心をお持ちの方など気象に関わる業務に従事した経験がない方でも興味を持って受講していただけます。

【受講の条件】

本オンライン講習会は、オンラインミーティングツール「Zoom」システムを用いて行います。そのため、この「Zoom」システムを利用できることが必要です。また、実習及び質疑・応答の際に音声及び画像の共有ができることが必要です。

3. 講習のテーマ

『身近な気象を知り、気象災害から身を守る』がメインテーマです。

2024年度の3日コースの実践予報技術講習会は日本の気候の特徴である春夏秋冬、四季の変化の中で現れる様々な現象のうち、雨、風、雪、その他霜や雷などの局地現象を対象に身近な現象への理解を深めます。また、それらの現象や予測のポイントの理解に加えて、各回3日目には防災への取り組みで重要なテーマを取り上げて解説します。

4. 講習目標

季節ごとに災害につながるような顕著現象について、天気〔短期〕予報、週間天気予報それぞれの視点から天気図や解析図、予測資料などの簡単な解析作業を行い、現象の把握・理解と予測のポイントを知り、防災上の着眼点など顕著現象に伴う災害の防止への“手がかり”につなげることを目標とします。

受講後は天気図や解析図などの資料を利用して自ら現象についての知見を広めるとともに、災害や防災に関わる知識を涵養することで防災力の向上につながることを目指します。

5. 講習の進め方

講習は特に予報に関する高度な知識や業務での経験は必要ありません。また、実習作業で用いる資料は気象庁や民間気象事業者のホームページなどでいつでも容易に入手できるものを使います。

2024年度は実況や予測資料を用いた簡単な演習も行いますが、資料から何を読み取るか、着目点やその結果としてのポイントの整理を中心に進めます。

それぞれ、雨や風などテーマに関わる現象についての理解を深めて、次のステップとして災害につながる現象とそれへの対応を考えます。

取り上げる事例等の資料は、事前〔1週間程度前〕に紙ベース及びファイルで送付します。演習のための事前の作業は特に必要ありませんが、できれば当日までに資料に目を通してテーマの概要を把握しておいてください。

質問については、各回講習会の終了後一定期間内に、受講された皆さんからの質問を受けます。いただいた質問にはできる限りお答えするよう努め、回答は受講された皆さんに提供します。

なお、ご質問すべてにお答えすることができない場合もあることもご承知おきください。

6. 第1回の講習の内容 《5月25日、6月8日、6月15日》

第1回は梅雨期から盛夏期にかけて、日本付近でしばしば発生する大雨を取り上げます。日本では季節の境目で春の長雨〔菜種梅雨〕や梅雨、秋霖などの雨の季節がありますが、特に梅雨期はしばしば大雨につながるような雨に見舞われます。また、梅雨明け後の盛夏期においても、南海上からの暖湿気や上空の寒気の流入によって、突然大雨が発生することがあります。

これらの大雨がどのような状況で起こるのか、過去の大雨事例を参考に現象の特徴、大雨につながる状況や大雨災害を防ぐためのポイントを見ていきます。

3日目は近年の気象災害の特徴と課題、防災への取り組みをテーマに、特に大雨災害を中心に解説します。

7. 講師

講師は、気象庁本庁において永らく予報現場の責任者として指導、管理に携わってこられた元気象庁予報課長の村中 明氏です。

現在、気象業務支援センター 特任講師

NPO 環境防災総合政策研究機構 理事

気象防災アドバイザー

退職後 これまでの講演・講師一覧

気象大学校、政策大学院大学、国際協力機構〔JICA〕、日本気象予報士会、日本防災士会、自治体〔県、市町村〕、企業・団体 等

気象防災〔タイムラインの構築、運用支援、河川の水防災 等〕に関わるアドバイザー業務

高知県、熊本県、長崎県、岡山県、広島県、大阪府、岐阜県などの市町村・

住民組織

著作〔共著〕一覧

- ・『防災事典』 日本自然災害学会 監修 築地書館 2002年8月
- ・『気象予報士ハンドブック』 日本気象予報士会 オーム社 2008年11月
- ・『災害情報論入門』 田中淳、吉井博明 編集 弘文堂 2008年12月
- ・『災害情報学事典』 日本災害情報学会 編集 朝倉書店 2016年3月
- ・『水害読本』 命を守る水害読本編集委員会 毎日新聞出版 2017年7月
- ・『風水害と防災の事典』 風水害と防災の事典編集委員 丸善 2021年12月等

8. 教材

当日使用する演習資料、まとめの資料等をテキストとして配布します。

9. 募集定員

30名（先着順）

10. 受講料（教材費を含む）

13,090円（11,900円 + 消費税）

11. 申込方法

「受講申込書」に必要事項をご記入の上、下記の申込先へ電子メールでお申し込みください。受講の申込みは先着順です。

メールより受講の受付け後、受講料の振込先をご連絡しますので、受講料を指定の銀行口座にお振り込みください。

また、請求書・受領書等を必要とされる場合は申込書備考欄に名義と必要書類をお知らせください。

なお、一旦納入された受講料の返金には応じかねますのでご承知置き願います。

宛 先

（一財）気象業務支援センター 「講習会」 担当 宛

E-mail : methiroba@jmbsec.or.jp

12. その他

今般の新型コロナウイルスにより、今回の募集に関し中止させて頂く場合もあります。その際には弊センターホームページにてお知らせしますので、予めご理解とご協力をお願い致します。

また、その際には、受講料は返金させていただきます。